診療所だより
第四一一号（８月号）
発行　医）宏友会
上田診療所
酒田市上野曽根
字上中割７３番地
TEL0234-27-3306
責任者　矢島恭一

シリーズ　第５回

白鳥の歌

白鳥さんたちのきずな２

文・写真　岸谷　英雄

親子、兄弟、夫婦などの仲間同士が強いきずなで結ばれている白鳥さんたち。群れをなして飛ぶ姿を思い浮かべる方も多いことでしょう。今回は、「親兄弟」や「夫婦」とはまた違った形のきずなのお話です。

前回白鳥さん親子のきずなについて書きました。それでも、家族や仲間がシベリアへ帰り、取り残される傷ついた白鳥さんが毎年何羽かいます。白鳥さんたちは春、繁殖のため新たに子育てをしなくてはならず、やむなく傷ついた子を残して北へ帰っていくのだろうと思います。

さて、残された白鳥さんたち、もともとは別のお仲間にいたものの同士ですが、次第に集まってきて助け合うかのように一緒にいるようになります。一人よりは仲間といるほうが、厳しい野生の環境の中では生き延びる可能性が高いためと思います。

昨年の春も、そんな取り残された白鳥さんの中に、コハクチョウの幼鳥が一羽いました。

きっと一人で不安だったのでしょう、取り残された他の白鳥さんを見るとずっと後をついて行きますが、もともと別のお仲間同士なので、時々他の白鳥さんからつつかれたりしていました。

それでも、この幼鳥さんは、他の白鳥さんと一緒でないと不安でしょうがなかったのでしょう、つつかれても、ずっと他の白鳥、それもオオハクチョウさんのそばを離れませんでした。

次第にオオハクチョウさんにも受け入れてもらい、オオハクチョウさんも時折、この幼鳥さんの姿が見えないと探すようなそぶりさえみせるようになりました。今回の写真は、まるで本当の親子のような幼鳥さんとオオハクチョウさんです。オオハクチョウとコハクチョウ、もともとは別の種ですが、最上川に取り残された白鳥さんたちは、新しい仲間とともに一生懸命に生きています。

前回の連載で「白鳥の寿命」について質問がありました。野生の白鳥は、約15年、最長でも20年とのことです。ただ、これはあくまでも飛べる白鳥さんで、飛べない白鳥さんは、餌を探す範囲が限られ、また川岸で不意に外敵に襲われても逃げきれない、などから、残念だけど傷ついた翌年の冬を越せないのでないかと思います。

このコーナーに
対する感想や
応援メッセージを
お待ちしています。
（編集部）

シリーズ「ふるさと」

その164 芭蕉の謎

芭蕉には謎めいた話が沢山ある。まず、芭蕉が上陸したのは清川なのか狩川なのかという謎である。曽良日記には「状添ハズシテ（書類が無く）番所有リテ船ヨリアゲズ（上陸できず）」との記録があり、清川では上陸できなかったようだ。しかし、下流の狩川から上陸した場合には関所破りの重罪人になってしまう。清川か狩川かの論争は現在も続いている。芭蕉は伊賀の生まれだったので「忍者だったのでうまくやったのだろう」との噂もある。

「荒海や佐渡によこたふ天河」は「奥の細道」の代表作である。元禄２年７月４日（１６８９年８月18日）、越後・出雲崎で詠んだものとされている。「荒海の日本海に浮かぶ佐渡島、その上空に横たわる天の川の姿」を詠んでいるが、実際には天の川を見ていないといわれている。台風が近づき見える可能性が無かったこと、星座盤を見ると、８月18日に天の川が佐渡の島の上空に横たわることはないからである。さすがは芭蕉さん！見ないで書いてもこの句は雄大で傑作である。

「一つ家に遊女も寝たり萩と月」遊女と一緒に泊ったという話だが、曽良日記によると遊女が泊ったのは隣の家であった。芭蕉は胆石病、痔それに女嫌いとの噂もあるが・・・謎である。

（庄内　平也）

エピソード記憶

矢島　恭一

ヒトの知能は、大きく流動性知能と結晶性知能の２つに分けられます。知能と密接に関連することに記憶があります。

記憶は、感覚器（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、痛覚など）から得た情報を短期間保持した後（短期記憶）、そのうちの多くは忘れ去られますが、一部はいつまでも記憶されます。それらを長期記憶といい、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶などに分類されます。

このうち言葉の意味や運転の技能など繰り返し使っている意味記憶は、歳を取っても衰えませんが、短期記憶やエピソード記憶は加齢とともに誰もが低下してきます。

エピソード記憶に該当する事象を振り返ってみると、その多くが何かと関連づけて憶えているように思います。

その時々に流行っていた歌であったり、ドラマや映画であったり、漫画であったりします。私の場合は、花にまつわるエピソードが結構多く、この欄にも書きましたが、アマリリス、ボケ、サクラ、ラベンダー、セントポーリア等々の思い出です。

先月号にも書きました夏川草介著『勿忘草の咲く町で』という小説に「カタクリ賛歌」という章が出てきます。小説全体は信州の小さな病院に赴任した研修医と若い看護師がお互いに惹かれ合うようになる恋愛小説として書かれていますが、その中で経験する様々な地域医療、高齢者医療という重い問題に真摯に向き合う姿が随所に出てきて、70代後半に入った老医が読んでも感涙ものでした。

小説の中の研修医は、花屋の息子という設定で、花に関する知識が非常に豊富です。「カタクリ賛歌」の章には、もう90歳を過ぎたので、積極的な治療は受けないで死を待ちたいが、一度だけ家に連れて帰りたいという息子さんの強い希望で、ある日一時外出をします。

同じ日にいつしか恋人同士になった研修医と看護師は、休日を利用してカタクリの花（花言葉は「初恋」だそうです）を見に出かけるのですが、そこで車椅子を押す息子さんと外出中の母親に遭遇します。

「昔はね、カタクリってどこにでも咲いている花だったんだよ」と研修医。「野山を歩けばいくらでも見つかる当たり前の山野草だったんだ。でも高度成長期の乱暴な土地開発で群生地がどんどん消えて、そこに安易な盗掘と温暖化という環境の変化が重なって、その数が激減したって言われている。」と恋人に説明します。

しばらくして別の患者さんの話。なかなか話を理解してもらえない患者さんの家族に病状を説明するシーンにカタクリが使われます。

「それほど大きな花ではないんですが、小さいわりに根を深く張る植物なんです。だから下手に育った土地から掘り起こすと大事な根が切れて、すぐに枯れてしまいます。」

「田々井さんはもう、根が切れてしまっていると僕は思うんです。」と説明した上で、高齢者には大変危険な治療だと承知しながら、やらないと死を待つだけと考える研修医は、治療に消極的だった自分の上司に懇願、手術は成功するのでした。

このような治療の選択に葛藤するのは私も同じで、「カタクリの根が切れている」という説明は上手い表現だなと思ったのでした。

さてエピソード記憶に話を戻すと、私も30年以上も前、往診の途中、山の中でカタクリの花を見つけた記憶があるのですが、その後その場所に行っても再び見かけることはないので絶滅してしまったのでしょうか。

こどもたちのさくひん

うえだこども園

▶コロナ禍でもキャンプで楽しい♪

vestagram

介護支援専門員
鈴木きみ

▶黄昏時からがキャンプの醍醐味！

職員が撮ったお気に入りを紹介します★

脳トレ アタマの体操

✩夏のなぞなぞ✩

第一問　海の中を４つのいわが泳いでいますよ。これは一体なに？

ヒントいわが４。魚の名前です。

第二問　「たる」が光ってとんでいます。な～んだ？

ヒント夏の夜に見られる、おしりが光る虫です。

頭を柔らかくして考えてみましょう！

答えは来月号です♪

今月の絵手紙

富山市在住の土田芳男さんより届いた絵手紙をご紹介します。

ほほえみがえし

先日初めて外来を受診したＳさん。その時、以前に診療所だよりの取材を受けたことがあると話してくれました。その時の診療所だよりを今でも取ってあるそうです。思い出として大事に残してくれていることがとても嬉しかったです。（陽子）

お知らせ

＊**新型コロナウイルス検査**（抗原検査・遺伝子検査）できます。検査をご希望の方はスタッフまでお声がけください。予約は電話にて可能です。

＊感染症の拡大予防のため、来所される際はマスクの着用をお願い致します。

編集後記

今回の「白鳥の歌」を読むまで、オオハクチョウとコハクチョウはそれぞれ別種であるとは知りませんでした。別種ながらも仲間としてきずなが生まれる様子に感動しました。（阿部）

印刷　（株）小松写真印刷